

2013
No. 289
3

誰もが、その人らしく、安心して暮らせる“福祉社会”をめざして!

いばらきの 社会福祉

Social Welfare of Ibaraki

みんなの手で地域をつくろう



はんどちゃん

はんどちゃんを紹介

はんどちゃんは、「福祉コミュニティづくり福祉県民運動」のキャラクターとして茨城県社会福祉協議会、茨城県内の市町村社会福祉協議会を中心に活用されています。

Contents

2 ～ 3

特集

・茨城県ボランティア基金からの助成を活用して、地域で新たなボランティア・市民活動が始まっています

4

・INAC神戸レオネッサ京川舞選手
はんどちゃん応援団に就任!

5

・第17回茨城県健康福祉祭いばらきねんりん
文化祭開催
・わかち合おう小さな善意

6

・社協職員リレートーク
・橋本知事へ「社会福祉に関する要望書」を提出
・はい!福祉相談です!

7

・新設福祉施設の紹介
・平成25年度のボランティア活動保健の改訂内容について
・茨城県はんどちゃん人づくり研修等事業
「施設職員等研修ガイド」

8

・はんどちゃんネットワーク運動 サロン活動レポート
水戸市・牛久市「いばらきコープ“移動店舗 ふれあい便”」





茨城県ボランティア基金からの助成を活用して 地域で新たな ボランティア・市民活動が始まっています

本会では、「茨城県ボランティア基金」の利息から、県内のボランティア・市民活動の振興を目的として様々な助成事業を実施しています。今年度は、15のボランティア・市民活動団体と24の市町村社会福祉協議会に対して助成を行い、地域に根ざしたボランティア・市民活動の支援を行いました。

また本会としても、基金利息を活用して事業を実施し、ボランティア・市民活動のますますの推進を図りました。そこで今回は、平成24年度に実施したそれらのボランティア基金事業についてご報告いたします。

茨城県ボランティア・市民活動推進事業費助成金

県内のボランティア・市民活動団体の自主的な活動を支援し、地域福祉活動の充実を図ることを目的とした助成金です。新たに下記の事業を実施する団体を対象に、活動に必要な費用を助成しました。

- ①ボランティア市民活動を振興するための学習及び研修事業
- ②ボランティア市民活動の振興に広く活用できる調査研究事業
- ③ボランティア市民活動の為に機器、器材の整備事業
- ④ボランティアグループ市民活動団体による開発的・モデル的事业
- ⑤ボランティア市民活動の基盤作りのための福祉教育及び啓発事業

今年度は、62団体からの申請があった中から、茨城県ボランティアセンター運営委員会の審査を経て、15団体への助成が決定しました。今回はそのうちの4団体の活動をご紹介します。

あかちゃんまつり

【子育て応援・ペンギんくらぶ】

0歳児を持つ親が集まり、育児に役立つ情報を学び、不安や悩みを相談することのできる場を設けました。



つくばみらい市民に 「傾聴」「傾聴ボランティア」を 知ってもらおう

【傾聴ほほえみ】

傾聴の大切さと傾聴ボランティアについて住民の皆さんに知ってもらうための研修会を開催しました。



特別支援学校小学生に対する 読み聞かせ授業

【朗読ボランティアすばる】

大型の絵本や紙芝居を使い、特別支援学校の小学生を対象とした読み聞かせの事業を行いました。



知的障がい者の将来の不安を なくす為に勉強会活動

【蛍の会】

障がいをお持ちの方とその家族が将来の不安をなくすため、自立生活に関する勉強会を実施しました。



茨城県市町村社協ボランティア・市民活動促進事業費助成金

県内における地域特性に応じたボランティアの活動を支援し、地域福祉活動の充実・拡充を期することを目的とした助成金です。県内の市町村社協が下記の事業を実施する際に必要な費用を助成しました。

- ① ボランティアグループ等組織立ち上げ資金助成事業
- ② ボランティア・市民活動の支援事業
- ③ 市町村社協の新たなボランティア活動開発事業

今年度は、茨城県ボランティアセンター運営委員会での審査を経て、24の市町村社協に助成しました。助成を受けて、実際に実施された事業例をご紹介します。

講座・研修会の実施

- ・ボランティア入門研修
 - ・メイクボランティア講座
 - ・傾聴ボランティア養成講座
 - ・福祉体験サポーター育成講座
- など

活動の支援

- ・活動費助成金
 - ・ボランティア保険加入費の補助
 - ・配食ボランティアグループの立ち上げ支援
- など

広報活動

- ・東日本大震災に関する映画上映会
 - ・ボランティアの養成、啓発を目的としたチラシの作成・配布
- など

茨城県ボランティアスキルアップ事業

市町村社協ボランティアセンターを支援することを目的に、県社協が主体となって事業を実施します。今年度は下記の事業を実施しました。

ボランティアコーディネーター研修の開催

例年よりも回数を増やして開催しました。「災害」「傾聴」「助成金」をテーマに、各市町村社協のボランティアコーディネーターのスキルアップを図りました。



ボランティア活動ステージアップ研修の開催

県内のボランティアの皆さんと、三重県で開催された「ボランティアフェスティバルみえ」に参加し、分科会で学んだほか、全国から来たボランティアの方々と交流する機会を持ちました。



災害ボランティア活動支援マニュアルの策定

被災地支援活動の経験者を中心とした策定委員会を立ち上げ、災害ボランティアセンターの立ち上げ・運営を中心としたマニュアルの策定を行いました。



平成25年度の茨城県ボランティア基金助成事業について

平成25年度も、「茨城県ボランティア・市民活動推進事業費助成金」「茨城県市町村社協ボランティア・市民活動促進事業費助成金」「茨城県ボランティアスキルアップ事業」の3つの助成事業を実施していく予定です。詳細が決まり次第、本会HP等でご案内いたします。

本会では、今後ともボランティア基金を有効に活用し、県内のボランティア・市民活動を支援してまいりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

INAC神戸レオネッサ京川舞選手 はんどちゃん応援団に就任!!

平成25年1月9日(水)INAC神戸レオネッサの京川舞選手が、茨城県社会福祉協議会を来訪されました。

1. 京川選手、はんどちゃん応援団に就任

今後は茨城県の地域福祉をPRしていただくため、京川選手が福祉コミュニティづくり福祉県民運動のキャラクターである「はんどちゃん」と“手”を結びました。

京川選手は、はんどちゃんと笑顔で固い握手を交わし、本会からは、はんどちゃんグッズと京川選手の12月28日の19歳の誕生日をお祝いし、花束を贈呈しました。

京川選手は、はんどちゃんグッズを手にして「かわいい」「このはんどちゃんのエコバックで買い物に行きます。」と大変興味を持っていただいた様子。「このように皆様に歓迎していただき、大変うれしいです。ありがとうございます。」とお礼の言葉をいただきました。



応援団の就任に大喜びのはんどちゃんと京川選手

2. 茨城ののどかな風景に心が落ち着きます。

現在、所属チームのある神戸に居住し、INAC神戸で活躍されている京川選手。半年ぶりに茨城に帰省し、「神戸は都会ですが、地元の小美玉に帰ってくると、のどかな景色に囲まれて落ち着きます。」と、久々の帰郷でリラックスされている様子。「茨城に帰ると地元の仲間と共に母校である美野里中学校を訪問し、当時を懐かしんでいます。」と笑顔で語ってくれました。

昨年は、母校の堅倉小学校でサッカーを通じて児童と触れ合ったり、今回の本会への訪問の前にも児童相談所を訪問して児童とサッカーをしたり、翌々日も母校の中学校で立志講演会「夢を追いかけて」の講師を務めたりと、精力的に若い人たちに夢と元気を分け与えつづける京川選手。「子ども達に囲まれると、自分にもこんな時代があったんだなと懐かしい気持ちになります。」と照れながら語ってくれました。

3. 社会人として、人間として成長したい。

今後の目標について伺ったところ、「今年は20歳になるので、社会人として、人間として大人になるという意識をもって成長し、なでしこジャパンの先輩のような選手になれるように日々精進します。」「シーズン中は練習やトレーニングがあり、なかなかボランティア等の活動ができませんが、児童施設等でサッカースクールをやりたいですね。」と今後の目標と共に福祉活動にも目を向けて話していただきました。

4. はんどちゃん活動を応援します!!

少女の様な顔立ちでありながらも、健康管理や体調管理等、自分に対して大変ストイックな一面もあり、インタビューを通して、京川選手の芯の強さと真面目な人柄が伝わってきました。「今後もはんどちゃんと茨城県社会福祉協議会の活動を応援します。」とありがたい言葉を残してくれた京川選手。そんな魅力的な京川選手の今後の更なる活躍を期待し、茨城県社会福祉協議会職員一同、はんどちゃん共々、応援していきたいと思っています。



京川選手と茨城県社会福祉協議会事務局前で記念撮影

京川舞選手 プロフィール

生年月日:1993年12月28日(19歳) / 出身地:茨城県小美玉市(旧美野里町) / 在籍チーム:INAC神戸レオネッサ / ポジション:FW / 背番号:14

小学校2年から、堅倉スポーツ少年団でサッカーを始める。中学時代は美野里中学校サッカー部とKASHIMA-LSCで活躍。高校は女子サッカー界の名門である宮城県常盤木学園高校へ進学。2009年にU-16日本代表、2010年にはU-17日本代表に選出。2011年にはチャレンジリーグEASTで得点王を獲得。同年AFC U-19女子選手権では日本を優勝に導き、得点王と最優秀選手に輝いた。2012年1月にINAC神戸レオネッサに入団することを発表。同年2月ポルトガルで開催されたアルガルヴェ・カップで日本女子代表(なでしこジャパン)に初選出、初戦のノルウェー戦で代表初出場を果たした。

第17回茨城県健康福祉祭いばらきねりん文化祭開催

この文化祭は、「わくわく美術展」と「ぼく☆わたしのおじいちゃん☆おばあちゃんの絵コンクール」(以下「児童画コンクール」)の入賞・入選作品の展示及びミニコンサートで構成しています。60歳以上の方を対象にした「わくわく美術展」では、6部門で741点の作品が出品され、小学生を対象とした「児童画コンクール」には、4,313点の応募がありました。

文化祭は、2月23日から3月1日までに茨城県民文化センターで開催し「わくわく美術展」725点(入賞75点、入選630点、前回知事賞受賞者9点、審査員11点)、「児童画コンクール」入賞40点を展示いたしました。

また、元気シニアバンクに登録している茨城シニアマス

ターによるミニコンサートを開催するとともに、入賞者の表彰式を行いました。

わくわく美術展・茨城県知事賞受賞者(敬称略)

- 日本画の部 石川 幸司(取手市) 伊野 晴子(小美玉市)
- 洋画の部 石塚 幸枝(坂東市) 菊池 ゆき子(日立市)
- 彫刻の部 長山 隆一(日立市)
- 工芸の部 飯田 達雄(桜川市) 國府田 和子(下妻市)
- 書の部 田中 ふじ(かすみがうら市) 小祝 武子(八千代町)
- 写真の部 野地 正治(日立市) 大森 正光(水戸市)

児童画コンクール・茨城県知事賞受賞者(敬称略)

- 低学年の部 渡邊 佳乃(利根町)
- 中学年の部 大畠 早翔(城里町)
- 高学年の部 中島 悠杜(下妻市)

わかち合おう小さな善意

<平成24年11月～平成25年1月善意金等の預託と払い出し状況>(敬称略)

ボランティア基金

預託者名	金額(円)
電気連合 日立工機労働組合	18,500
合 計	18,500

交通遺児福祉基金

預託者名	金額(円)
一般社団法人 日本自動車販売協会連合会 茨城県支部	1,000,000
合 計	1,000,000

善意金

預託者名	金額(円)
株式会社ヤクルト本社	100,000
古河ヤクルト販売株式会社	100,000
水戸ヤクルト販売株式会社	100,000
水郷会	50,000
富士企業株式会社	1,851
(財)茨城新聞文化福祉事業団	1,500,000
(財)常陽新聞厚生文化事業団	300,000
合 計	2,151,851

善意品

預託者名	善意品	払出先名
茨城県生命保険協会	福祉巡回車2台	市町村社会福祉協議会
NTT東日本茨城支店	電話お願い手帳500部 ふれあい速達便500部	社会福祉団体
大内 幸夫	クリスマスケーキ10個	社会福祉施設
常陽ボランティア倶楽部	車いす(子ども用)3台 高齢者疑似体験教材3セット	茨城県社会福祉協議会

使用済み切手・使用済みテレホンカード等

預託者名	預託者名	預託者名
株式会社 植正園	茨城県保健福祉部 子ども家庭課	社会福祉協議会(常陸太田市、小美玉市、土浦市、坂東市、常総市、かすみがうら市、つくば市、行方市、筑西市、神栖市、大洗町、鉾田市、潮来市、城里町、常陸大宮市、北茨城市、稲敷市、日立市、桜川市、東海村)
電気連合 日立工機労働組合	金江津小学校	
茨城県水戸県税事務所総務課	オーシャンクラブ	
(財)茨城県メディカルセンター	ミンクスネットワーク	
青鹿 節子	富士企業株式会社	
茨城県保健福祉部 長寿福祉課	高柳 美幸 高柳 真美 眞子 勉	
PTSE(株) つくばSC	小堤 美智代	
笠間市社会福祉協議会 スタンプありんこ	茨城県保健福祉部 障害福祉課	
茨城いのちの電話	茨城県庁内郵便局 加瀬満広	
株式会社 三共建設		
内原和敬寮		

ご協力ありがとうございました!



社協職員リレートーク

Relay Talk Vol.16
結いのまちづくり

結城市社会福祉協議会 池羽 修一

このリレートークをお借りして、私の住む結城市でのひとつのイベントについて紹介したいと思います。催しの名前は「結い市」。「結いプロジェクト」（略して結いプロ）というまちづくり団体が手掛けているイベントです。結いプロは結城出身の建築士の方が、結城の古き良き文化と若い世代の感性が融合したコミュニティデザインが出来ないかという思いから活動をスタート、今では20～30代のメンバーが集い多彩なイベントを展開

しています。メンバーとまではいきませんが私もちょっとだけ参加させてもらっています。

全国各所で様々な地域活性化を目的とした取り組みが進んでいますが、結いプロの活動もまさにその一端を担っています。



メインシンボルの大暖簾の下多くの来場者が集う神社の境内

さて、結い市は毎年秋頃に開催されるのですが、3回目を迎えた去年は「音」をテーマに歴史ある建造物や通りが会場となり結城に所縁ある商店や雑貨、カフェが軒を連ね、神社や酒蔵等のステージでは多方面で

活躍するアーティストがパフォーマンスを披露し、日が沈んだ後、結城紬の手作り行灯によって境内が穏やかな灯りで包まれる中、フィナーレを迎えました。2日間でおよそ1万人近い来場者が訪れたとのこと。

「結い」という言葉には、屋根の葺き替えや田植えなど共同で行う作業を指す意味が含まれているそうです。地域社会の希薄化、縮小化が喫緊の問題ですが、そんな中で結いプロのように、みんなで繋がり地域を盛り上げようとする人達がいることは、同じ街で暮らす1人として心強く感じながら、社協に勤める1人として、こういった活動に何か新たなサポートが出来ないもんかなと青写真を描いたりしています。

結い市は今年も秋頃開催予定です。秋の遠足の一案にいかがでしょうか。ぜひ「結い」のまちづくりと一緒に楽しんで頂けたら幸いです。



今回、同級生バンドで酒蔵ライブに参加。おかげで見事にお茶は濁された。

橋本知事へ「社会福祉に関する要望書」を提出

本県の福祉団体等（本会を含む20団体）の代表で構成する茨城県社会福祉予算対策委員会は、11月30日（金）に県庁を訪問し、上方委員長（茨城県社会福祉施設経営者協議会会長）から「平成25年度社会福祉に関する要望書」を橋本知事に提出しました。

要望は、主に「福祉人材確保」や「災害時の支援」に関係するものが多く、その他の要望を含め全団体で合計56項目を要望書にまとめて提出しました。その後、橋本知事と意見交換を行い、橋本知事から「現在、緊急雇用対策事業で雇用している方が、従事している仕事を継続できるよう考えていかなければならない。」「県の財政状況も厳しいですが、できる限り施策に反映できるように努力してまいります。」というお言葉をいただきました。



Q 介護中のマークについて教えてください。

A 認知症の方の介護は、他の人から見ると介護している

ことが分かりにくいと、誤解や偏見を持たれて困っているとの声が、介護家族から多く寄せられ、こうした要望に応え、介護する方が介護中であることを周囲に理解していただくために作成されたマークが「介護マーク」です（下図参照）。

介護していることを周囲にさりげなく知ってもらいたいとき、駅やサービスエリアなどのトイレで付き添うとき、男性介護者が女性用下着を購入するときなど介護中のマークを着ける事で介護中であることが分かります。障害のある方の介護をするときも利用できます。市役所、市町村役場、地域包括支援センターで配布しています。


はい!
福祉相談
です!

新設福祉施設の紹介 平成24年11月1日～平成25年1月31日までの開設

特別養護老人ホーム

特別養護老人ホーム めぐみの杜	社会福祉法人 心利会	定員 / 50 名	〒302-0026 取手市稲29番1	0297-84-6155
特別養護老人ホーム 鉾田サンハウス	社会福祉法人 武仁会	定員 / 50 名	〒311-1534 鉾田市鳥栖2100番9	0291-34-3050
特別養護老人ホーム ルロシエ	社会福祉法人 朱白会	定員 / 70 名	〒300-1524 取手市神浦646番地	0297-85-4891

平成25年度のボランティア活動保険の改訂内容について

【保険料】 **Aプラン**:基本タイプ280円→300円
天災タイプ490円→460円
Bプラン:基本タイプ420円→450円
天災タイプ720円→690円

※天災タイプは、天災(地震・噴火・津波)に起因する被保険者自身のケガを補償するものです。

補償金額にも改訂がありますので、福祉保険サービスのホームページ等でご確認いただくか、最寄りの社会福祉協議会にお問い合わせください。

茨城県はんどちゃん人づくり研修等事業「施設職員等研修ガイド」(平成25年4月～6月開催予定分)

4月	25日	社会福祉施設等新任職員研修A-①コース
5月	9日～10日	社会福祉施設等新任職員研修B-①コース
	16日～17日	社会福祉施設等新任職員研修B-②コース
	23日～24日	社会福祉施設等新任職員研修B-③コース
6月	10日	社会福祉施設等新任職員研修A-②コース

※日程につきましては、あくまで予定です。講師との調整などにより、開催日が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

※上記研修等についての問い合わせは、福祉人材・研修部(TEL:029-244-3755)までお願いいたします。

社会福祉施設 しせつの損害補償 総合損害補償

ホームページでも内容を紹介しています
http://www.fukushihoken.co.jp

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために!

プラン1 施設業務のための補償

(賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険)

①基本補償

- 基本補償(A型)は、法人業務中、法律上の賠償責任が発生した場合、包括的に補償
- 見舞費用付補償(B型)は、賠償責任のない場合の見舞金が充実
- オプション1 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 施設の医療事故補償

②個人情報漏えい対応補償

- 個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合(おそれのある場合を含みます)に補償

③施設の什器・備品損害補償

- 施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
- 施設の現金等も補償

◆スケールメリットを活かし、充実した補償内容です。

加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営している社会福祉施設です。

プラン2 施設利用者のための補償

(普通傷害保険)

- ①入所型施設利用者の傷害事故補償
- ②通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 施設職員のための補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険)

- ①施設の労災上乗せ補償
- ②施設職員の傷害事故補償
- ③施設職員の感染症罹患事故補償

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記にお願いします。

団体
契約者 社会福祉法人
全国社会福祉協議会
(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン

取扱
代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

はんどちゃん
ネットワーク運動

水戸市
牛久市



サロン活動 レポート

平成25年
2月13日取材

水戸市・牛久市 いばらきコープ 移動店舗 ふれあい便

今回は、新しい形でサロンとの連携を進める、いばらきコープの買い物弱者支援事業『移動店舗 ふれあい便』（水戸市・牛久市で展開）を紹介します。買い物弱者とは、日常の買い物に困難をきたす人を指します。茨城でも増え続けており、いばらきコープでは福祉政策「誰もが安心して暮らせる地域づくり」の一環として、この問題に取り組むことを決定。

2011年より『移動店舗 ふれあい便』の1号車を水戸市内に走らせることとなりました。

「きっかけは、茨城キリスト教

大学の岩間信之先生から買い物弱者について学んだこと、そして総代会議で「買い物弱者」の買い物支援について多くの意見が出されたことです。その後、岩間先生のご協力、水戸市や水戸商工会議所などの推薦をいただく中、経済産業省の「買い物弱者対策支援事業」として認定され、スタートしました。元々コープには共同購入システムはありますが、高齢の方が新会員になるのは、注文の仕方が細かいなどハードルが高かった。でも移動販売車は注文不要。専用車に商品を積み、困っている方々の近くまで伺っています」とは、いばらきコープの熊野さん。「難しいのは駐車場所の確保でした。民家の庭や駐車場などをお借りし、少しずつ販売停留所を増やしていったんです」。その時、声をあげたのがコープ会員であり、たま

り場『とき荘』の主催者でもある塙直子さんでした。「この近くでもスーパーが減り、年配の方の買い物が不便になっていたの

で、たまり場にふれあい便を呼ぶ要望を出しました」と塙さん。結果は上々で、買い物に不便をきたしていたサロンの方に喜ばれたのはもちろん、会員同士、さらに紹介されて買い物に来た方々との会話が增え、家にこもりがちな方も外に出るようになったそうです。「自分で歩いてきて、お財布を出してお金を払うのがいいのよ」とはふれあい便利用者の仁科さん。このように水戸での活動が広がるなか、今度は牛久市から要請を受けます。「牛久市での展開は、牛久市、牛久市社会福祉協議会、牛久市地域包括支援センターといばらきコープが協議会を作りスタートさせました」といばらきコープの藤田さん。牛久市でもたまり場や行政区での販売を行っています。「今の目標は、停留所の確保と利用高の確保です」。いばらきコープは他にも社会貢献事業として『コープデリ宅配』や『夕食宅配』、市町村との『見守り協定』などを行なっています。「今後、地域に根差して誰もが安心して暮らせる地域づくりをすすめていきたいと考えています。今回のふれあい便の停留所をたまり場に置けたのは、私たちにとって力強い連携です」と藤田さん。今後、いばらきコープの取り組み、そしてたまり場のような地域の活動との連携は、ますます必要とされていくのではないのでしょうか。



いばらきの社会福祉

Social Welfare of Ibaraki



環境に配慮して再生紙と大豆油インキを使用しています

発行者

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会

〒310-0586 水戸市千波町1918

TEL.029(241)1133(代) FAX.029(241)1434

<http://www.ibaraki-welfare.or.jp/>

E-mail ibashakyo@ibaraki-welfare.or.jp



携帯電話で読み取るだけで簡単に「茨城県社協HP」にアクセスできます